

## 令和5年度学校自己評価表

米子松蔭高等学校

教育目標	【建学の精神】社会で真に役立つ実践的な人材の育成	今年度の 重点目標	1. 一人ひとりの生徒への誠実な対応 2. 教員の指導力向上 3. 新学習指導要領への対応 4. 国際教育の推進 5. 校務の合理化
------	--------------------------	--------------	--

年度当初					最終評価	
評価項目	具体項目	現状	目標（年度末目指す姿）	目的達成の方策	評価	経過・達成状況・改善方策
1 一人ひとりの生徒への誠実な対応	学校と保護者との協力関係の構築	昨年度途中からコロナ前の活動が少しずつ取り戻せるようになってきた。	保護者の学校行事への積極的な参加。	各専門部の取り組みについて保護者と教員で連絡を密にする。	A	今年度コロナが5類に引き下げられたことにより、各行事において保護者の方々の積極的な活動が見受けられた。
	基本的生活習慣・公共心の育成	社会生活においてマナー・モラルが遵守できていない生徒に対して規範意識の育成が必要	・基本的生活習慣の定着 ・規範意識の向上	「あいさつ」「時間」「身だしなみ」「交通マナー」を中心各HRにおいて指導、立ち番指導等で意識向上を図る。	B	「真に役立つ実践的人材の育成」を目指し「挨拶」「時間を守る」「身だしなみ」等を全職員で連携して行う。
	様々な生活指導上の問題の防止	特にSNSに起因する問題行動が増加している。	・情報モラル・リテラシーを育みトラブル防止	デジタル・シティズンシップ教育（講演会含む）の推進	B	本年度は数年ぶりに講演会を開催したが、その後にSNSトラブルが発生した。来年度以降は講演会、授業を通して更なる防止対策に取り組みたい。
	1人ひとりの可能性を最大限伸ばし、希望の進路を実現する	・受験の形式が複雑なため、生徒一人一人とコミュニケーションを取り、指導にあたる必要がある。 ・探究の時間を有効活用し、指導内容を強化する。	・多くの教員が志望理由書作成指導や小論文指導が出来る体制を構築する。 ・より効果のある内容を模索し、希望進路の充実度を向上させる。	・教員対象の小論文研修会の実施など教員が学ぶ機会を設ける。 ・様々な方策を研究し、成果に繋げる。	B	・教職員研修会を実施し指導力向上を図るとともに指導体制を整備することができた。 ・生徒、保護者、担任、進路指導部の間の連携を密にとり、各生徒に対して丁寧に指導することができた。 ・総合的な探究の時間等を活用し、1、2年次から総合型選抜や学校推薦型選抜で必要となる力を付ける取り組みを増やしたい。
	各部署と連携をとり、生徒の相談と支援の実施	支援が必要な生徒の増加、多様化に対し、学年部の協力を得ながら適切な教育相談・支援に努めている	学校全体で理解を深め、適切な支援を行う	・切れ目のない支援のための引継ぎ ・適切なアセスメント ・学校内外の連携	A	中学校からの引き継ぎの多くは、問題が顕在化することなく学校生活に適応できている。必要に応じて学年・保護者・SC・SSWと連携を取りながら支援にあたった。
2 教員の指導力向上	学校行事等を通じて生徒の自主自律の精神を育てる	行事を成功させるために、早めに計画を立てて行動する。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となるイベントを目指す。	学校行事の充実 生徒会活動の充実 部活動との連携	学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。	A	生徒が主体となって、学校行事の成功をおさめることができた。引き続き様々なイベントの企画・運営を行い、思い出に残るような行事を目指して取り組む。
	授業改革の推進	従前の授業の利点を大切にしながら、ICT活用を推進している。	教員のICT活用のスキルと、多様なコンテンツを活用できるスキルが向上する。	・全教員が授業評価を実施し、授業改善に繋げる。 ・相互に授業を公開し、相互に研鑽を図る。	A	・2回目の授業評価を実施し、授業改善に活かすことができた。 ・相互に授業を公開し、ICTや多様なコンテンツの活用について情報共有することができた。
	生徒の人権意識を高め、思いやり・倫理観の育成	思いやりの気持ちがあり、自他の権利を大切にする生徒が多い一方、教室等不適切な言葉遣いの生徒も少数ある。	お互いの尊厳を自覚し、人権感覚を高め、不適切発言を許さない技能・態度を身に着けさせる。	・人権ホームルームでの学習を通じ、知識にとどまらず技能・態度を養わせる。	A	言葉遣いアンケートを通じ、生徒は自他の尊重、適切な言葉遣いの大切さに気づいた。人権ホームルームを通じ、人権感覚を高めた。これからも日常・学習両面で生徒にとって意義ある人権の取組みを続けたい。
	授業計画表の提出と振り返り	学期ごとの授業計画を作成し、学期末に自己評価を行っている。	学校生活の核となる授業について、その進め方や難易度、学習効果などを検証し、常に改善するすることで、より充実した教育の提供を目指す。	個々の教員が、自己評価と生徒による授業評価を照らし合わせ、自己完結することなく授業の改善に取り組む。	A	学期の終了後に授業の見直しを行い、授業アンケートと照らし合わせ、自らの授業の改善点を見直し、次学期の授業計画を作成した。
3 新学習指導要領への対応	観点別評価の導入	令和4年度入学生より観点別評価を導入し、各教科において3観点「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3段階（A～C）の評価を行っている。	新指導要領にある「学習指導」の目標と「学習評価」を一体化させ、生徒が具体的な努力の方法が分かるようにする。	教科ごとに評価規準を隨時検討し、生徒の実態や目標に沿ったものになるようにする。	A	学期の成績を生徒へ観点別評価で伝え、生徒が具体的な努力の方法が分かるように指導を行った。 教科ごとに評価基準を検討している。
4 国際教育の推進	グローバル人材の育成	現在、海外からの留学生があり、他の生徒たちと異文化交流を行っている。	豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を有し、国際社会で活躍できる人材を育成する	・留学生の受け入れの推進 ・留学生を通した異文化交流の推進 ・留学生奨学制度の新設	A	国際交流委員会を開催し、留学生受け入れ体制の検討を行っている。 留学生奨学生を来年度より実施する。 3学期に海外の学校との交流予定。
5 校務の合理化	学校行事の円滑な運営	感染症の感染対策を継続し、学校行事を運営している。	感染症の対策業務を精選すると共に、安全に学校行事を運営する。	・学校感染症の種々の対策について要否の判断を的確に行う。 ・早期に緻密な計画を立てよう努める。	A	・必要な感染症対策を行い、安全に学校行事を運営してきた。
	円滑で正確な入学試験事務の実施	Web出願を導入したことにより、一部作業の負担軽減を行うことができた。	Web出願のさらなる推進。	昨年度のWeb出願を振り返り、受験生、保護者、中学校にとってよりよい出願フォームを作成する。	A	今後もシステム会社と連携し、より効率的で便利な入試システムの構築を推進していく。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：目標・方策の見直し